

Vol. 11

〈発行日〉
平成30年1月1日

松下ゆきよし



県政活動レポート

発行責任者／愛媛県議会議員 松下行吉 連絡先／〒791-2141 伊予郡砥部町岩谷口135 TEL (089) 969-3605

松山市大可賀に竣工したえひめ森林発電の木質バイオマス発電所。今月から営業運転が始まる。▶



みきゃんの縫いぐるみとCLT(直交集成板)でつくった木になる“みきゃん”▼



謹賀新年

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

写真は、県内初の木質バイオマス発電所です。木質バイオマス利用は、低炭素社会の実現に向けて重要な課題です。また、森林資源の有効活用と、それによる国土の保全、地域の活性化などに大きな役割を果たすことが期待されています。県内林業に大きな戦力が生まれました。今年が、皆様にとって良い年となることを祈念いたします。

元旦の膳にのせたる若松の
不老長寿の約束におう

(ラジオ深夜便 鳥海昭子の誕生日の花と短歌365日より)

愛媛県議会定例会（平成29年12月）

概要

第354回愛媛県議会定例会が、

11月27日から12月13日までの17日間

の会期で、開催されました。64年振

りの開催となった「えひめ国体」、ま

た、初の全国障害者スポーツ大会を

成功裏に終えて、まだその余韻が覚

めない中で開催された定例議会でし

た。一般質問では、えひめ国体・え

ひめ大会（全国障害者スポーツ大会）

の総括を問う質問が多く出され、加

計問題への取り組み姿勢などについ

ても質問がありました。

可決した議案は、補正予算7件（退

職手当引き下げによる追加補正予算

3件があります。）と条例11件、その

他の案件15件、人事案件2件、決議

1件の計36議案で、概要は以下のと

おりです。

また、定期検査後の伊方原発3号

機再々稼働の停止を求めることなど

の請願5件と、国家戦略特区による

今治市への獣医学部新設について説

明責任をはたすことを国に求める意

見書は不採択としました。

① 補正予算

補正予算は、台風18、21号で被害を

受けた農業用施設の復旧費などを盛り

込んだ一般会計11億3,072万円と

企業会計（3会計）1億4,580万

円で、合計12億7,561万円です。

主な事業は次のとおりです。

【人件費等】

職員や特別職の給与改定費など人件

費のアップ分が11億7,767万円（企

業会計は全額人件費）と、国に準じた

退職手当の引き下げにより退職手当を

5億8,848万円減額。差引5億8,

919万円となっています。

【債務負担行為】

ゼロ県債（注1）10億6,925万円を

計上して、県単独緊急防災・減災対策

事業を前倒しすることとしています。

【表1】人件費等の概要

(1) 一般職 11億 7,444 万円（一般会計 10 億 1,620 万円、企業会計 1 億 5,824 万円）

区分	職員数	予算額	追加補正（退職手当の減額）	
一般会計	1 万 9,013 人	10 億 1,620 万円	△	5 億 7,598 万円
一般職員	4,208 人	2 億 1,757 万円	△	1 億 990 万円
警察職員	2,848 人	1 億 4,987 万円	△	5,087 万円
学校職員	1 万 1,957 人	6 億 4,876 万円	△	4 億 1,521 万円
企業会計	2,063 人	1 億 5,824 万円	△	1,250 万円

(2) 特別職 323 万円（一般会計 317 万円、企業会計 6 万円）

※期末手当の年間支給割合の引き上げ

(3) 追加補正 一般会計 △ 5 億 7,598 万円、企業会計 △ 1,250 万円

国家公務員の退職手当引き下げに合わせて、県一般職員と特別職の退職手当を引き下げる。

表紙の木質バイオマス発電所（えひめ森林発電）では、年間 10 万トンの燃料を使用します。県森林組合連合会から間伐材など未使用材のチップ 6 万トンを購入し、残りを輸入パームヤシ殻で補う計画です。年間発電量は、約 8 万 7 千メガワット（約 2 万 4 千世帯の消費分に相当）を見込んでいます。なお、事業費は 60 億円で、愛媛県が国の補助事業を活用して 14 億円の無利子融資をしています。



松山空港に着陸したチェジュ航空の旅客機

※長尾谷川（松前町）の護岸、河床掘削工事と、岩谷川（砥部町）の護岸工事に予算（ゼロ県債）が付ききました。

【ソウル線の安定運航】

11月に就航した韓国の格安航空会社（LCC）チェジュ航空による松山―ソウル線の安定運航に向け、4,881万円を予算化しました。

①国際線LCC利用促進

利用者専用無料送迎バスの運行や、

3,471万円

若年層を対象に旅行商品の割引（パスポート取得の促進）、航空券購入助成、松山空港駐車場料金助成などインバウンド（訪日外国人客）、アウトバウンド（日本からの利用）両面から利用促進を図ります。なお、松山市の助成（1,618万円）も合わせると5,089万円になります。

②国際化支援事業 1,410万円

松山空港ビル（株）がチェジュ航空に実施した空港施設使用料等の減免相当額を助成します。なお、松山市の助成（705万円）も合わせると2,151万円になります。

【中予家畜保健衛生所等解体工事費】

旧家畜病性鑑定所（松前町）は、解体工事に伴う事前調査で外壁吹き付け材に微量のアスベスト（石綿）が含まれていることが判明。飛散防止対策などの追加工事費4,309万円を計上しました。

※補正予算の内容を4ページの表2～4にまとめました。

② 条例

主なものは、次のとおりです。

○平成30年4月から国民健康保険の運営を都道府県が担うことに伴う国民健康保険法施行条例の制定
○給与改定や退職手当の引き下げに伴う関係条例など既存条例の改正

③ その他

○土地改良事業など地元負担金を定めるもの（7件）
○平成30年度に県で発売する宝くじ（注2）の総額を134億8,500万円としました。

○財産処分

西条市にある東予港埋立地約9万8,500平方メートルを、四国電力に7億円で売却します。

○県立医療技術大学の定款の変更

自治法の改正により地方独立行政法人法が一部変わったため、定款の一部を変えました。

○土木建設事業の負担金額の変更（2件）や、土木工事の契約額の変更（3件）

○継続審査となっていた平成28年度決算を認定

○専決処分の承認や報告（6件）

自動車交通事故の損害賠償額の決定、衆議院選挙に係る補正予算など

④ 人事案件

県収入委員に井伊敏郎氏（65歳、農業、西予市）の再任、小川佳和氏（46歳、弁護士、松山市）の新任に同意しました。

⑤ 決議

北朝鮮による弾道ミサイルの発射に抗議する決議

（注1）ゼロ県債

ゼロ県債とは、その年度分に支出のない（歳出予算ゼロの）県の債務負担行為を言います。次の年度の予算の事業を、前倒して発注し、公共事業の平準化と工事の早期完了・代金の早期支払いを目的としています。

（注2）宝くじ

宝くじは、都道府県及び政令市（全66団体）が法律に基づき発売し、収益は発売地域のものとなります。発売など運営は、「全国自治宝くじ事務協議会」（全国協）を中心になされています。平成22年の資料では、全国で1兆419億円の売り上げがあり、収益は4,181億円となっています。

[表2] 予算規模

※企業会計は給与改定等に伴う補正のみ ※追加補正を含む

◆ 一般会計補正予算	11億3,072万円	【累計	6,535億 819万円】
		【債務負担行為	10億6,925万円】
◆ 企業会計補正予算(3会計)	1億4,580万円	【累計	620億5,176万円】

[表3] 一般会計 歳入予算

※追加補正を含む

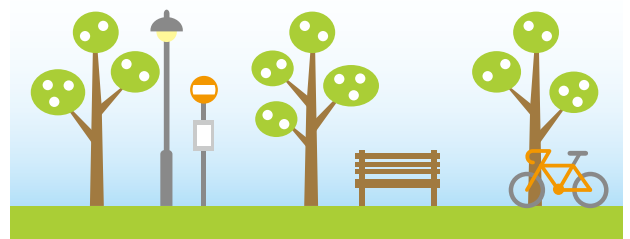
区分	補正予算額	
国庫支出金	6億9,004万円	災害復旧、義務教育国庫負担など
繰入金	4億2,568万円	財政基盤強化積立金繰入
県債	1,500万円	災害復旧事業に充当
合計	11億3,072万円	

[表4] 歳出予算の概要

当面措置を必要とする経費	6億8,733万円
(1) 台風18号、21号により被災した施設の復旧	5億9,043万円
・豪雨被害を受けた農地農業用施設の復旧	5億7,543万円
・豪雨被害を受けた農林水産研究試験ほ場等の復旧	1,500万円
(2) 県単独緊急防災・減災対策事業の早期執行	【債務負担行為 10億6,925万円】
・緊急輸送道路等の整備	5億2,170万円
・河川、海岸、港湾施設の改修	2億8,764万円
・土砂災害を防止する砂防施設の整備	1億5,228万円
・河川の氾濫を防止する河床掘削の推進《緊急対策》	1億 763万円
(3) 一般政策経費	9,690万円
・松山空港国際線 LCC インバウンド・アウトバウンド両面から利用促進	3,471万円
・松山空港国際線の安定運航を確保するための支援	1,410万円
・ロシア・オレンブルグ州への訪問団派遣による文化交流の推進	500万円
・中予家畜保健衛生所の旧庁舎解体に係る追加工事	4,309万円



松前町にある中予家畜保健衛生所(家畜病性鑑定所)の旧庁舎。
平成29年4月東温市田窪に移転。



えひめ国体・全国障害者スポーツ大会を終えて

冒頭でも64年振り、単独では初めての開催となった「えひめ国体」、また、初開催の全国障害者スポーツ大会（「えひめ大会」と言います。）を成功裏に終えたことに触れましたが、えひめ国体の成績は、天皇杯（男女総合）2位、皇后杯（女子総合）2位。得点は天皇杯2395.5点、皇后杯1196点で、過去に天皇杯を獲得した開催県の得点（平成26年長崎県2364点、平成27年和歌山県2257点）を超えており、目標としていた優勝には届きませんでした。関係者の努力は十分評価できると思います。特に空手の稲葉洋一監督（砥部町七折）の優勝会見での涙が印象に残ります。

また、えひめ大会では、県内9市町で13競技と3つのオープン競技が実施され、愛媛県勢は過去最高の121個（金54、銀30、銅37）のメダルを獲得。3日間の会期中、愛媛県選手団450人を含む47都道府県と20政令指定都市の選手団や大会役員、観覧者ら総勢8万2千人の参加がありました。



天皇杯と皇后杯の表彰状

中村知事は、これらの成果を生かし「スポーツ立県えひめ」の充実に向けて、県庁組織の中にスポーツ局のような一元化できる体制をつくることも考えていると発表しています。今回の大会を契機に、愛媛のスポーツ界がさらに飛躍することが期待されます。

集記 編後

▼昨年11月上京の際、時間を作って上野動物園に行きました。平日でも、大変な賑わいです。立地条件から外国、特にアジアからのお客が多いようです。ところで、上野動物園の人気者にゴリラがいます。ゴリラは、絶滅危惧種に指定されており、輸入ができません。平成18年までとベ動物園には、ニシローランドゴリラのナナ（当時推定24歳）がいましたが、ブリーディングローンという契約で、上野動物園に貸し出しています。ゴリラは、群れで生活します。平成6年から上野動物園はゴリラを複数集め、「ゴリラの住む森」を整備して、群れ飼育を始めました。国内外の動物園の協力を得てゴリラを借り受け、繁殖に努めています。現在、上野動物園では、オス1匹、メス6匹（内2匹は子供）と、ニシゴリラのモモコ（推定34歳）が昨年10月に出産した赤ちゃん（性別はまだ不明）がいます。ナナ（写真）は子供をつくっていませんが、2匹の子供ゴリラを大変かわいがっているようです。



子供ゴリラと仲良く並んでいるメスゴリラ（ナナだと思われる）

▼「晴走雨読」で紹介しましたが、今年も明治維新から150年の区切りの年です。幕末、宇和島藩には四賢侯と謳われた藩主伊達宗城がおり、日本で最初に日本人だけで蒸気船を造っています。また、シーボルトに学んだ二宮敬作が、西予市（旧宇和町）で開業医として活躍。日本人女性で初めて産科医として西洋医学を学んだ楠本イネ（シーボルトの娘）を育てています。卯之町には、敬作の教えをうけようと村田蔵六（後の大村益次郎）が来ていますし、「蚕社の獄」を逃れた高野長英が匿われています。

明治維新と言えば、薩摩（鹿児島）、長州（山口）、土佐（高知）、肥前（佐賀）の各県名を思い浮かべますが、南予も大変頑張っていたのです。

このあたりのことは、司馬遼太郎の小説「花神」に出てきますので、ご一読ください。なお、明治新政府に参加した元藩主は少ないのですが、伊達宗城は、新政府の閣僚に名を連ね、外交、財政、面で活躍しました。

▼中国が「トイレ革命」に取り組んでいるようです。また、インドのトイレ事情とか、このところトイレの話題が多いと思いませんか。都道府県立高校のトイレの洋式化は、全国平均35・8割。愛媛県は18・6割で全国最下位といった新聞記事もありました。このようなこともあり、学校のトイレについて、12月議会の文教・警察委員会で、洋式化を進めるべきとの趣旨で発言しました。お金の掛かることですので、一気にとはいかないようです。ラジオで聞いたのですが、今は男性でも洋式トイレで小用をする際には、座ってする人が多いようで、コメントータは、「自分はいつも座っている」と当然のように答えていました。男性の皆さんどう思いますか。

『陽だまりの樹』

著者：手塚 治虫 出版：小学館文庫

この『陽だまりの樹』は、漫画雑誌「ビッグコミック」に1981年（昭和56年）4月号から約6年間掲載された劇画で、漫画の神様、手塚治虫の晩年の作品です。

幕末期の日本を、二人の主人公をおして描いています。一人は、架空の人物伊武谷万二郎。小藩の下級藩士で、剣の達人です。無骨で直情径行の武人ですが、なぜか男女を問わず慕われます。もう一人は、蘭方医の手塚良庵（後に「良仙」）。名前から分かる通り作者手塚治虫の先祖、実在の人物です。医師の家に生まれて大坂適塾に進んだエリートですが、遊び人で、遊郭通いが止みません。当然、女性にもてます。このあたりは、作者が作ったものでしょうが…。

対照的な二人を軸に、安政の大地震、牛痘痘所開設、真忠組事件など幕末期の事件を織り込んで物語が進んでいきます。

タイトルの「陽だまりの樹」は、当時の徳川幕府の姿です。200年を超える鎖国の中で、因習に囚われ、門閥で占められて倒れかけている徳川幕府。水戸学の大家藤田東湖は、これを庭



「の陽だまりにある枯れかけた桜の老木に喩えて、「陽だまりの樹」と呼びました。万次郎は、この倒れようとする幕府を終始支え、最後は彰義隊に加わり、戦闘の中で杳として姿を消します。

今年、明治改元（1868年）から数えて150年。それにちなんでか今年のNHK大河ドラマは、林真理子の小説「西郷どん！」（せごどん）が原作。脚本を『ドクターX』外科医・大門未知子』や連続テレビ小説『花子とアン』などを執筆した中園ミホが手掛けます。女性の視点でとらえた西郷隆盛像、女性の目から見た明治維新はどのようなものになるのか、楽しみです。

『陽だまりの樹』のラストでは、手塚良庵が、軍医として西南戦争に従軍して行きます。朝霧の中に旅立った良庵。その良庵は、戦場で赤痢に斃れ帰らぬ人となりました。ご存知のとおり、西南戦争で薩摩方は敗れ、西郷隆盛は戦死します。そして、この内戦を境に明治日本は急速に近代国家の形を整え、帝国主義の歩みを早めます。

（文中敬称略）

愛媛県議会議員

松下行吉 まつした ゆきよし

〒791-2141 愛媛県伊予郡砥部町岩谷口 135

TEL 089-969-3605 FAX 089-969-3606

Email : matsushita31@iyo.ne.jp

<http://www.iyo.ne.jp/matsushita31/>

